

米国カリフォルニア州 長引く熱波への懸念

[FreshPlaza](#) 2024年7月11日

カリフォルニア州の長引く熱波に対する当面および長期的な懸念

カリフォルニア州の長引く熱波は、引き続き州内の一部の作物に影響を与えている。熱波は7月4日(独立記念日)の祝日の直前に始まり、華氏100度(摂氏37.8度)を超える(場合によっては華氏122度(摂氏50度)にも達した)記録的な気温がまだ続いている。

ウェストサイド青果会社のギャレット・パトリシオ氏は、「暑さは人々や作物に打撃を与えている」と言い、長引く暑さが収穫時期を早めているとしつつ、「毎日の収穫スケジュールに間に合うように最善を尽くしているが、暑さのために作業できる時間が短く、労働者の生産性が低下しているため、通常どおりの量を畑から出すのが難しくなっている」と指摘する。

収量に影響

カーンリッジ農場のロブ・ジラゴシアン氏も同意見で、「暑さはニンジン出荷にとって依然として懸念事項であり、収穫にその影響が出始めている。熱波が始まって以来、収穫量の減少が続いている。華氏110度前後の日がさら続いた場合、収量低下の傾向が続くのかどうか注視したい」と述べた。

ヴァリワイド有機農場のメyson・パーキンソン氏によると、熱波の到来当初は、有機核果類の出来にプラスの影響を与え、6月上旬に集中していた収穫を遅らせ、全般的に糖度を大幅に増加させた。同氏はしかし、「現在の熱波のレベルは、現場に一種の『停滞』を生み出している。通常、ある品種の収穫を始めると、2回目の収穫を行うまでに3~4日の間隔があるが、現在は収穫までの期間は7日近くになり、出荷にわずかな空白が生じている。これは、弊社の果肉の白い核果類や、よりニッチなプルオット(スモモとアンズの交配種)のような特産品では栽培面積が小さいため最も顕著である」と言う。

今後は収穫が少ない

園地の暑さにより、労働者の安全のために収穫作業時間が限られるため、今後7~10日間は有機核果類の出荷量が通常よりも少なくなる。パーキンソン氏は、「白肉のモモとネクタリンは、今後数週間は供給が逼迫した状態が続くと予想している。これらの品目はこのレベルの高温によるダメージを受けやすく、通常よりも出荷量が少なくなる可能性がある。幸いなことに、7月は黄肉のモモとネクタリンのほかスモモの収穫量が多いので、これらの品目の需要に見合うだけの十分な果実が出荷できると予想している」と言う。

これらはより直接的な暑さの影響であるが、パトリシオ氏は、この熱波の影響は今後数週間から数カ月でさらに大きくなると感じており、「猛暑の時期にはミツバチは通常働かないので、受粉不良で落花したり、着果量が減少したりする傾向がある。その影響が見られるのは30~60日後だろう。同様に問題なのは、灌漑用水、特に点滴灌漑で何が起こるかである。奇妙に思えるかもしれないが、植物が水を吸収する速度は同じではなく、地表に水が押し出されることもあれば、成長にほとんど影響を与えないこともある」と述べた。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)